



リスク回避に効率アップ

トマトとパプリカで飯南町を元気に

まだ認証を受けた実感がありませんが、認証取得を目指してよかったです。仮に、認証取得に向けて取り組んでなかったら、今あるものが、何もなかった可能性だってあるんじゃないかな。

その一つが、調整場です。今は、事務所として使ったり、野菜を袋詰めするときには、自宅で猫を飼っているためです。産直に出荷する野菜を袋詰めするときに、猫の毛などが袋にはいらないようにしなくてはなりません。調整場を新築することも考えましたが、お金もかかるので、自宅の隣にある蔵を改修することにしたんです。

僕たちを待っていたのは、開かずの扉でした。鍵のかけ方が分からない僕たちを、近所の人が助けてくれました。鍵が開いた後は、座布団や茶わんなどの荷物撤去。足場はコンクリートで固め、壁はホームセンターで買った板で張り直しました。電気が通って、袋詰めができるようになったときは感動しました。それまで町内の建物の一角を借りて、袋詰めをしていたので、収穫後に袋詰めに通う毎日でしたから。壁張りや電気配線も、地元の人が手伝ってくれたんですけどね。

もう一つは、農機具を整理整頓するた



安全でおいしい 島根県GAP認証

島根県独自のGAP認証制度「美味しまね認証」。認証取得者は「食の安全」「環境保全」「作業者の安全」などに配慮した基準（穀物で最大136項目、青果物で最大125項目）に基づき生産しています。

町内でも、これまでに米や生姜の生産者が認証を取得。今月は、1月28日に認証を取得した生産者(1法人・4個人)の声を紹介します。

※GAP…農業生産工程管理(Good Agricultural Practicesの略)



認証を機に ステップアップ

宇都宮彰一さん(下赤名)
就農6年目(大阪府からターナー)



農機具の整理整頓に向けて、倉庫の片づけから始めました。これが一番、大変でしたね。ほ場のリスク管理にも手こずりましたが、廃棄を減らせる可能性もあります。昨年は、大雨の影響もあり、多くの廃棄が出てしまったので。これまで以上に、生産効率を上げて、収益アップを図りたいです。

ほかに、色つや・形のよさにこだわるため、ムラのない着花作業や、水分量や太陽光の当て具合に気を付けたいです。今回の認証を機にステップアップできればと思います。



やってよかった 「美味しまね認証」

(農)琴麓
代表理事 難波重信さん



認証取得までにやるべきことがたくさんありました。例えば、農機具の整理整頓や農薬保管庫の設置、在庫の管理などです。正直、少し大変でしたが、今は「やってよかった」と思っています。道具を探す手間が無くなっただけでも効率的になりましたしね。

白ネギの栽培は2年目で、今は土壌改良に力を入れています。飯南町の産直と邑南町に出荷していますが、お客さまには「甘くておいしい」と喜んでもらっています。次は「米」で認証を狙いたいですね。



井上頼重さん・優さん(獅子)
就農1年目(大阪府からターナー)



めの棚です。壁掛けタイプと、収納箱タイプを作りましたが、寸法を間違えたり、鉄パイプを切ったり大変でした。でも、「使いたい道具の位置がすぐに分かる」っていういいですね。コンテナの中に道具を入れていて、取りたい道具が一番下にあることを考えると、恐ろしいですね。

ほかに、スマホでハウスの温度・湿度を確認できるようにしたり、生産工程で生じるあらゆるリスクを洗い出し、回避する方法を書類にまとめたりしました。調整場や資材置き場、ほ場ごとに、リスクやレイアウトを記載するのは大変でしたね。

そう考えると、認証取得を目指してなかったら、今しんどかったんでしょうね。僕たちは、0からのスタートだったから、「美味しまね認証」の基準を受け入れやすかったのかもしれない。認証を受けたからといって、トマトやパプリカが高く売れるわけではありませんが、リスク回避こそが最大のメリットです。リスクを避け、効率を上げられれば、栽培に集中できます。

毎日、試行錯誤の連続ですが、楽しくやっています。そんな姿をSNSなどで発信しつつ、これからも獅子で、おいしいトマトとパプリカを作っていきたいです。それで少しでも、飯南町が有名に、元気になれば。



決められたところに整理整頓するのが基本の「美味しまね認証」。棚を作るのにも一苦労の頼重さん。道具のほとんどを近所の人から譲り受ける



蔵を改修して作った調整場。「できなかったことが、できるようになるのって楽しいですね」と優さん。壁にはおしゃれなイラストが



袋詰めしたパプリカ。少しでも手に取ってもらえるように、オリジナルステッカーを作成。頼重さんのイメージを、優さんがカタチにするのだそう

経営改善に繋がりたい

川住京介さん(上赤名)
就農2年目(広島県からターナー)



細かい書類がたくさんあったので大変でしたが、「自分が最低限把握しておかなければならないこと」がほとんどでした。今回の認証がゴールではなく、スタートだと思って、経営の改善に繋がってほしいです。

これからも有機肥料を中心に、芽かきや誘引をしっかりして、枝ぶりがきれいになるように心掛けていきたい。栽培面積も広げていきたいです。パプリカ以外にもスイートコーンやニンニクの栽培にも挑戦するつもりです。ニンニクは認証も狙っています。



自分の農業基盤に

澤島旭さん(野堂)
就農1年目(茨城県からターナー)



認証を受けるための基準が多く、苦戦しました。「これがない、あれがない」「こうじゃない、ああじゃない」って、足りないものをコツコツ補っていった感じです。でも、就農1年目で認証に向けて取り組んでよかったです。この基準が、自分の当たり前になったし、今後の自分の農業基盤になっていくんだと思います。

今年は、基準はもちろん、土壌を整えたり、トマトの木の健康に気を付けたりしながら、おいしいトマトを作っていきたいです。

